

第16回 設楽ダム猛禽類検討会 議事概要

日時：平成 28 年 11 月 7 日（月） 15:00～17:10

1. 猛禽類検討会の経緯

- ・これまでの検討経緯について説明を行った。

2. 平成28年繁殖シーズンの調査結果について

- ・クマタカ B、C ペアは繁殖成功、A ペアは巢内雛を確認したが、巣立ちした幼鳥の確認に至っていないことを報告した。
- ・A ペアの幼鳥確認（繁殖の成否）は、次期シーズンの調査（12 月）で継続実施することについて了解を得た。
- ・営巣地は、A ペアは既知巣近傍の新規巣、B ペアは既知巣、C ペアは既知巣から約 1.5km の新規巣（ダムサイトから離れた方向）を確認したことを報告した。
- ・クマタカ 3 ペアの行動圏の変化について、近年繁殖した平成 28 年繁殖シーズンと平成 26 年繁殖シーズンのモニタリング結果から検証した結果を報告した。今後も繁殖があった場合は今回と同様に検証を行うものとし、行動圏の変化と工事との関係や保全措置等への参考とすることで了解を得た。
- ・その他猛禽類のサシバ 2 ペアが、繁殖に成功していることを報告した。

3. 平成28年繁殖シーズンのモニタリング結果の評価について

- ・工事や埋蔵文化財調査でクマタカの忌避、警戒行動等は確認されなかったこと、過去にも同様なモニタリングを行いながら施工した実績から影響が見られなかったことを報告した。
- ・巣内雛までは 3 ペアとも確認されていることから、平成 28 年繁殖シーズンの工事等については結果的に影響はなかったと考えられることを報告し了解を得た。

4. 平成29年繁殖シーズンの調査計画（案）について

- ・クマタカ及びその他猛禽類の調査計画（案）を確認した。
- ・クマタカの調査期間中に繁殖が確認されなかった場合でも、頻度を落として調査を継続することについて了解を得た。

5. クマタカの環境保全措置の対応方針について

- ・平成 29 年度末迄に予定されている工事、埋蔵文化財調査の範囲確認調査・本調査は、営巣木との距離・位置関係、過去の施工実績、時期から、通常の定点観察でモニタリングすることについて了解を得た。
- ・工事期間中の繁殖成功率については、工事の状況にもよることから繁殖成功率という数字だけで影響を判断することのないよう参考値的な扱いとすることとした。

以上